



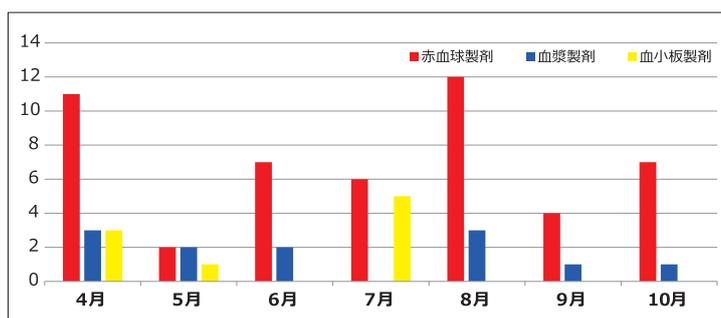
企画・発行 日本赤十字社中四国ブロック血液センター 学術情報課 Tel 082-241-1619  
協力 中四国ブロック内各赤十字血液センター



## 中四国ブロックにおける 輸血用血液製剤不具合情報の調査について

血液センターでは、輸血用血液製剤の不具合について医療機関から申し立てがあった場合には速やかに必要な調査を行っております。具体的には、まず当該血液の現状を確認後、原因究明のため、採血・検査・製造・医療機関へ供給されるまでの各状況調査を行います。必要に応じて他の血液センターへの無菌試験依頼やバッグメーカー等への調査依頼を行うこともあります。

令和7年4月から同年10月末時点で中四国ブロック管内の医療機関からの申し立て件数は70件でした(図)。内訳は、交差適合試験不適合が44件、血液製剤の漏れが13件、血液製剤中の塊が11件(内、血小板製剤9件)、血液製剤の色調異常・輸血フィルターの詰まりが各1件となっています(血液製剤別の申し立て・調査結果は表参照)。



(図) 医療機関からの申し立て件数 (2025年度)

(表) 血液製剤別の申し立て内容・調査結果

製剤	申し立て内容	件数	調査結果	件数
赤血球製剤	交差適合試験不適合	44	直接抗グロブリン試験陽性	40
			直接抗プロブリン試験陰性	4
	血液製剤の漏れ	3	衝撃による破損疑い	1
			輸血セット挿入不良	1
			調査中	1
血液製剤の色調異常	1	乳び	1	
輸血フィルターの詰まり	1	寒冷凝集	1	
血漿製剤	血液製剤の漏れ	10	容器破損	8
			輸血セット挿入不良	1
			調査中	1
血液製剤中の塊	2	クリオプレシビテート フィブリン	2	
血小板製剤	血液製剤中の塊	9	血小板凝集	4
			異常なし	5

例年、申し立て件数の半数程度を占める交差適合試験不適合については、調査の結果、直接抗グロブリン試験陽性となった場合には、そのドナーの方が次回以降献血した際に再度試験を実施し、陰性と判定された製剤のみを供給するようにしています。

血液製剤の漏れについては、製剤の不適切な取り扱いも原因となることがあります。製造工程やバッグメーカーへの確認など多角的な調査を実施した結果、その多くは、発生段階が不明な破損や、輸血セットの挿入不良となっています。このような場合、製剤の適切な取り扱い方法について改めて情報提供させていただきます。

血液製剤中の塊については、特に血小板製剤中の凝集物の存在は、製剤の安全性にも関わる問題です。細菌スクリーニング検査を実施した製剤の供給を開始した令和7年7月30日以降、申し立て件数は0件となっており、これは同検査の導入により、凝集物の有無による製剤の品質が同等であるとの当方の情報提供について、医療関係者の皆様のご理解くださったことによるものと考えております。

血液製剤の不具合情報は、単なる報告ではなく医療現場と血液センターが連携して品質を高めるための貴重なフィードバックであると考えています。中四国ブロック血液センターでは、申し立て内容を丁寧に調査し、改善につなげることで、安全な血液製剤を供給できるよう努力してまいります。医療機関の皆様方におかれましても血液センターから提供している各種情報を基に血液製剤の取扱いには十分ご留意いただきますようお願いいたします。

(中四国ブロック血液センター 品質保証課 川西 悟史)

# 「献血デビュー」 ～献血ルーム「もみじ」の初回献血者の動向～

中四国一番の規模を誇る本通商店街には、献血ルーム「もみじ」と「ピース」の2カ所の献血ルームがあります。商店街入口にある「もみじ」は、2025年11月に開設35周年を迎え、これまで多くの献血者の皆様に支えられてきました。今回は、「もみじ」における初回献血者の動向と、そのアンケート結果をご紹介します。

## 【初回献血者の動向】

2024年4月～2025年3月の1年間に「もみじ」で献血デビューをされた方は、月平均で70人前後でした。年末年始の12月～1月は50人台に減少しましたが、春先には回復し、3月には95名と1年間で最も多くの方が献血デビューをされました。

## 【若年層が中心】

年代別では、20代が338人(34%)、10代が319人(32%)と、若年層が全体の約7割近くを占めています。10代は進学や卒業の時期に多く、20代は年間を通じて安定していますが、30代以上は少数で、特に40代以降は全体の1割未満にとどまっています。



## 【アンケートの声】

献血のきっかけは「時間つぶし」という方が多く、買い物や学校、仕事の合間に立ち寄ったケースが目立ちました。本通商店街の入口という立地や、18時30分まで受付している利便性が大きく影響していると考えられます。また、「スタッフが優しい」「安心できた」との声も寄せられ、雰囲気の良さが献血デビューを後押ししていることがうかがえます。

## 【今後の課題】

課題は、30代以上の初回献血者が少ないこと、そして「時間つぶし」をきっかけにした献血は、継続に繋がりにくいことです。次回につなげる工夫や、幅広い世代が献血に協力しやすい仕組みづくりが必要になると考えています。

## 【最後に】

中四国ブロック内で重要な役割を果たしている献血ルーム「もみじ」と「ピース」は、これからも若い世代の献血デビューを大切にしつつ、「自分の一歩が誰かの命を支えている」という思いを広め、幅広い年代の方に足を運んでいただけるよう取り組んでいきたいと思います。

(広島県赤十字血液センター 本通出張所 松本 佳子)

